

ボランティアで、世界を変える。自分を変える。



# 2023年度活動報告書

中央大学ボランティアセンター



# 目次

● ご挨拶	1
● 概要	2
● 利用集計	3
● 主催・共催事業 活動報告	4
①被災地・復興支援活動	4
②多摩キャンパス周辺の地域活動	5
③都心キャンパス周辺の地域活動	7
④講座・ワークショップ・交流会	10
⑤シンポジウム	12
● 連携事業 活動報告	13
● 学生スタッフ・公認学生団体 活動報告	14
①学生スタッフ	15
②公認学生団体	16
面瀬学習支援	16
チーム防災	17
りこボラ!	18
● 協定・助成／メディア掲載	21

## ボランティアセンター長 / 副学長（学生総合支援担当） / 学生部長 鳥居 伸好



2023年度は、法学部の茗荷谷キャンパス移転に伴い、主に都心キャンパスのボランティア活動支援に関わるコーディネーター1名が加わり、コーディネーター2名体制でのボランティア活動支援を行うことになりました。これまで多摩キャンパスでボランティア活動を担っていた法学部の学生の皆さんが、新たなキャンパスでどのようなボランティア活動ができるのか、またどのようにボランティア活動を支援すればよいのかという課題と不安を抱えながらの年度初めでしたが、各キャンパスの学生の皆さんとコーディネーターの尽力により、そのような不安は杞憂となり、多摩キャンパスでは、これまで通りの学生スタッフとコーディネーターを中心とするボランティア活動が進められ、後樂園キャンパスでは、同じく「りこボラ！」を中心とするボランティア活動が行われたうえで、さらに市ヶ谷田町キャンパスを含む都心キャンパス群におけるボランティア活動が、とりわけ地域連携を図った取り組みとして実施されるという、非常に厚みのあるボランティア活動が展開されました。そのような流れを受けて、2023年9月には、茗荷谷キャンパスにおいてボランティアセンター創設10周年記念のシンポジウムが開催され、ボランティアセンターの10年の歩みとその成果が確認されました。

ボランティアセンターは、学生の皆さんがボランティア活動を通して自らを成長させ、学ぶことのできる様々な機会を提供する役割を担っていますが、その活動にご理解とご支援をいただく多くの方々のご協力があって、その役割を果たすことができます。例えば、大学周辺における地域連携のもとで推進されるボランティア活動では、地域の皆さんとの連携と協力関係が不可欠です。また、災害等の突発的な出来事に対する臨機応変に柔軟な対応が求められるボランティア活動でも、現地の皆さんとの協力関係は不可欠です。2024年が始まってすぐに能登半島地震が発生し、学生の皆さんによる募金活動や現地でのボランティア活動がはじまりましたが、主体的に動く学生の皆さんやそれを支える多くの方々との支援と協力関係があって、ボランティア活動が成り立ちます。2023年度ボランティアセンターの活動報告にあたり、関係者の皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げますとともに、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ボランティアコーディネーター（多摩キャンパス） 開澤 裕美

2023年度は、大きな変化に富んだ一年となりました。まずは、法学部の茗荷谷キャンパス移転に伴い、都心キャンパスにボランティアセンターができたこと。そして、そこに常駐するコーディネーターを増員できたことです。

これまでも後樂園キャンパスで文京区の地域の皆さんには大変お世話になっていましたが、茗荷谷にもキャンパスができたこと、社会課題に関心の高い法学部の学生の皆さんと一緒に、新たな地域に入らせていただくことは、身も引き締まる思いです。また、2013年に中央大学ボランティアセンターを設立してから10年が経過し、11年目となる2023年度に茗荷谷キャンパスにてシンポジウムを実施することができました。

ボランティア活動は、自分の意思で手を挙げて活動する学生、そして何より受け入れてくださる地域や団体の皆さんがあってこそ成り立つものです。日頃より、学生を温かく迎え入れてくださるすべての皆さまに心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。ボランティアは、非効率だけれども確実に人と社会を変えていくものだと感じています。今後も皆さんと一緒に、社会をよい方向に変えていけるよう、尽力していきたいと存じます。

## ボランティアコーディネーター（茗荷谷キャンパス） 藤掛 素子

2023年5月に茗荷谷キャンパスのコーディネーターに着任し、都心キャンパスを中心に、多くの中央大学生に出会えた1年となりました。

中央大学生は「社会に役立ちたい」「何かしたい」と“社会貢献”の意欲を持つ学生が非常に多いこと、また、「行動する知性。-Knowledge into Action-」というユニバーシティ・メッセージに象徴的なように、知性と行動の往還を好む学生が非常に多いことが特徴だなと感じています。

学生に「貢献したい」「行動したい」想いがあるとして、その想いを、では具体的に、どなたへ向けて、どんなふうに、何をすることで実現していくのでしょうか。私は、おもしろいと感じること、好きなこと、没頭できることをきっかけに、コンフォートゾーンから抜け出て、直接「異質な誰か」と出会うことで、だんだんと見えて形づくられていくのかなと感じています。そのとき、ボランティアセンターが参考になる存在でありたいと願っています。コーディネーターとして、大学生を、地域のみなさんを、決してひとくりにせず、お一人お一人の感じていること、考えていること、志向していることへの理解に努め、地域のみなさんと学生が、介在無しに直接かかわれる機会を創っていき、学生が、自ら考え自らの行動を決定していけるよう、伴走していきたいです。

# 概要

## ● 設立のあゆみ

- 2011年3月 学生部学生課主導で構内募金活動実施
- 2011年8月 学生課主催により学生ボランティアを宮城県気仙沼市に派遣
- 2012年4月 東日本大震災被災地支援団体ネットワーク設立
- 2013年4月 ボランティアステーション設置
- 2015年4月 ボランティアセンター設立

## ● ビジョン

2022年6月より中央大学ボランティアセンター Vision を策定しました。

中央大学は建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」教育と研究を発展させるとともに、「行動する知性。Knowledge into Action」というユニバーシティ・メッセージを掲げ、教育研究活動を通じて広く社会に貢献することに努めてきました。それに加えて、社会連携と社会貢献それ自体を新たな使命として位置づけ、これを「中央大学の社会連携と社会貢献に関する理念」として公表しています。ここでいう「社会」とは、大学が存在するキャンパス周辺の地域社会から、日本社会全般、さらにはグローバルな諸課題を抱える社会までを含みます。中央大学ボランティアセンターは、地域等の多様なコミュニティと連携し、そのニーズに応じた活動を展開すると共に、活動の中で社会の課題を新たに発見し解決に向けた行動を自ら起こすことのできる学生の育成に努めるべく、以下のようにビジョンを定めます。

1. 学生一人ひとりが持つ可能性を信じ、寄り添いながら、学生主体の活動を支援する
2. 学生が社会課題を知り自らの経験を言語化する過程を支援し、学生の新たな学びへとつなげる機会を提供する
3. 学生がボランティア活動を通じて社会の多様性の意義を学び、グローバルな視野をもって活躍できるように支援する
4. ボランティアの意義や魅力を学生とともに発信し、社会の変革と発展に寄与する

## ● 運営委員

一号委員	経済学部	鳥居 伸好	三号委員	理工学部	田口 善弘	四号委員	学生部事務長	山ノ井和哉(～6/30)
二号委員	文学部	榎本 泰子		文学部	横山 佐紀		学生部事務長	安東 久(7/1～)
三号委員	法学部	西 亮太		総合政策学部	籠谷 公司	五号委員	学生生活課	開澤 裕美
	経済学部	千葉 謙悟		国際経営学部	陳 建安		学生生活課	藤掛 素子(5/1～)
	商学部	中村 亨		国際情報学部	岡嶋 裕史			

## ● 公認学生団体 顧問

面瀬学習支援	法学部	西 亮太	ふらっと真備	経済学部	鳥居 伸好(～5/10)
	法学部	猪股 孝史	りこボラ!	理工学部	田口 善弘
チーム防災	商学部	中村 亨			

## ● 活動内容

### 被災地・復興支援活動

被災地の一刻も早い復興を願い、学生ボランティアによる支援を行っています。被災地支援ボランティアを行う学生への活動費補助やボランティアセンター主催のプログラムを実施しています。

また、東北学院大学を拠点校におく「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に加盟しています。

#### 【ボランティアセンター公認学生団体】

- 面瀬学習支援 (宮城県気仙沼市面瀬/子どもの居場所作り・学習支援)
- ふらっと真備 (岡山県倉敷市真備町/水害防災啓発活動) ※ 2023年5月10日付活動収束

### 地域活動

環境・農業・福祉・まちづくりなど、安全性の高いボランティア情報を提供しているほか、ボランティアセンター主催のプログラムを実施しています。

#### 【ボランティアセンター公認学生団体】

- チーム防災 (多摩キャンパス周辺/防災啓発活動)
- りこボラ! (後樂園キャンパス周辺/ボランティア啓発活動)

#### 【多摩キャンパス周辺活動一例】

- クリーン大作戦 (キャンパス内外でのごみ拾い)
- せせらぎ農園 (コミュニティガーデンで子ども×農作業企画運営)
- ほっこり食堂 (子ども食堂での運営手伝い)
- 愛宕かえで館 (地域の交流の場でのイベント企画運営)

#### 【茗荷谷キャンパス周辺活動一例】

- 子ども実験教室 (大塚地域活動センター、小日向児童館)
- ハロウィンイベント (茗荷谷町会、茗荷谷育成室)
- よみかかせの会 (文京区立小石川図書館)
- XFOOD (食に関する情報交換の会)

### 講座・ワークショップ・交流会

初めての人から経験者まで、ボランティア活動がより充実するための、スキルアップ講座やワークショップ、学生の交流がすすむ場づくりを実施しています。

### 学生スタッフ

ボランティアセンターの運営を学生目線から支える学生スタッフ制度を2021年度より開始しました。ボランティアセンター主催プログラムの企画から運営、ボランティアの魅力を伝える活動など、学生目線を生かしたプログラムを実施しています。

# 利用集計

## 【多摩キャンパス来室者数、開室日数】

人、日

月	来室数計	内 訳			開室日数	1日当たり 学生来室数
		学生	教職員	学外の方々		
4月	79	79	---	---	20	---
5月	83	83	---	---	18	---
6月	250	242	---	8	22	11.0
7月	188	186	---	2	18	10.3
8月	43	41	---	2	15	2.7
9月	91	84	---	7	18	4.7
10月	190	184	---	6	20	9.2
11月	229	220	---	9	20	11.0
12月	207	189	---	18	17	11.1
1月	183	180	---	3	17	10.6
2月	52	50	---	2	18	2.8
3月	38	32	---	6	19	1.7
合計	1,633	1,570	0	63	222	7.1

※ 4・5月は、コーディネーターと相談した学生のみカウントしています。

## 【茗荷谷キャンパス来室者数、開室日数】

人、日

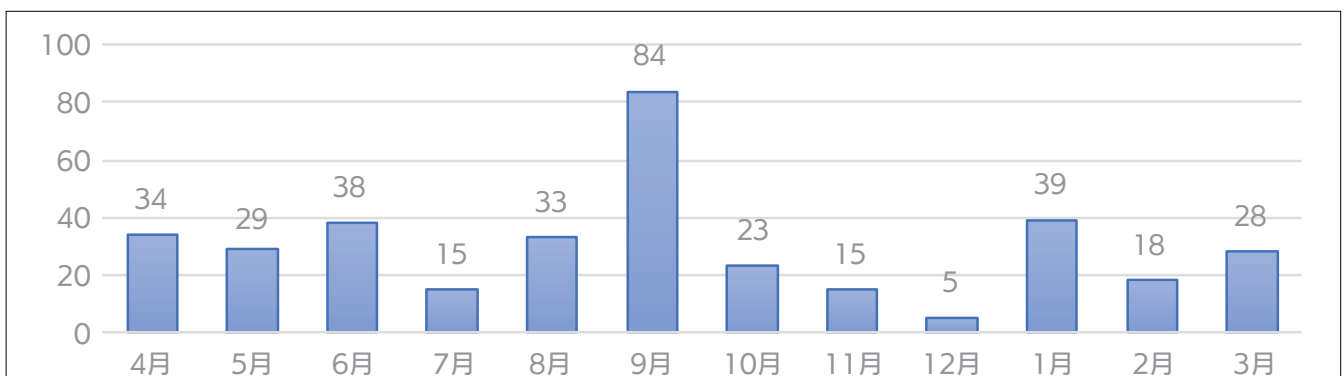
月	来室数計	内 訳			開室日数	1日当たり 学生来室数
		学生	教職員	学外の方々		
4月	----	---	---	---	----	---
5月	83	65	6	12	13	5.0
6月	119	101	11	7	16	6.2
7月	74	51	15	8	17	3.1
8月	53	48	1	4	11	4.4
9月	14	7	3	4	16	0.4
10月	174	146	11	17	20	7.2
11月	155	132	10	13	17	8.0
12月	174	158	10	6	16	9.9
1月	103	92	8	3	13	7.4
2月	36	30	2	4	13	2.4
3月	76	76	0	0	16	4.9
合計	1,061	906	77	78	166	5.4

※新設キャンパス 2023/5/11 より開室

## 【学生限定メールマガジン登録者数・配信数】

●登録者数 746人 (2024年3月31日時点)

●2023年度新規登録者数 361人 (上記人数に含む)



●配信数 53通

## ① 被災地・復興支援活動

### ● 秋田県五城目町災害復旧ボランティア

2023年7月15日から東北地方に梅雨前線が停滞し長時間降り続いた雨により馬場目川や内川が氾濫し被害を受けた秋田県南秋田郡五城目町にて、災害復旧ボランティアを実施しました。秋田市在住の本学卒業生からの呼びかけから実現し、学生と学生がボランティアを通じて協働する良い実例となりました。授業期間の週末に行う遠方の宿泊型プログラムでしたが、54人という多くの学生が手を挙げてくれ、関心の高さを感じました。

実施日	内容	参加者
10/21 (土) ~ 22 (日)	・災害により着手が遅れている民泊施設の家づくりの手伝い (外壁づくり・壁の漆喰塗り)	学生 23 教員 1



#### 学生の声

2日間という短い時間の中で、秋田という場所でこんなにも地域や世界とつながり、グローバルでローカルな活動をされていることに感銘を受けた。勇気を出して申し込んでよかったと心から思う。

### ● 宮城県丸森町冬ボラ

2019年10月に発生した台風19号の被災地である宮城県伊具郡丸森町において、ボランティアセンターとして3度目となるボランティア活動を実施しました。コロナ禍により復旧作業が遅れており、台風から3年が経過した現在もまだボランティアの必要性を感じました。被災地支援という側面だけでなく、限界集落や里山保全といったあらゆる角度から社会課題について身を持って学ぶことができるプログラムとなりました。

実施日	内容	参加者
12/26 (火) ~ 28 (木)	・台風災害用の側溝の土砂払い、田んぼの水路の堀上、観光整備 (筆甫地区) ・土砂で埋まっている道路側溝や農業用水路の土砂撤去	学生 18 教員 1



#### 学生の声

筆甫地区の「自分たちでできることは自分たちでやる」という考えを持って実際に行動している方のお話をお伺いして、難しいとは思いますが、この考え方が全国的に広がると災害時や緊急時に共助ができるのではないかと感じた。

### ● 福島県大熊町春ボラ & スタディーツアー

2021年度のオンライン企画から始まり、2022年度には2度現地へ伺った福島県大熊町において、大熊町周辺のスタディーツアーとボランティアを実施しました。今回は農園や牧場、学校といったあらゆる施設を訪問させていただき、各側面から復興を考えることができるプログラムとなりました。

実施日	内容	参加者
2/8 (木) ~ 10 (土)	・大野駅周辺スタディーツアー、ネクサスファーム・もーもーガーデン・とみおかワインドメニューでの作業、学び舎ゆめの森訪問	学生 17 教員 1



#### 学生の声

ボランティアはその活動を通して、その地について深く知り、関わり、考えることができるものだということが分かった。そして、一緒に活動した仲間とともに深い議論をすることは大変貴重だった。

## ● 能登半島地震 被災地支援 構内募金活動

2024年1月1日の能登半島地震発災を受け、全4キャンパスにて募金活動を実施しました。合計142,457円の募金が集まり、中央共同募金会および日本赤十字社に寄付を行いました。

キャンパス	募金箱設置	街頭募金
多摩キャンパス	1/17(水)～31(水) ※休日を除く 学生生活課(6号館地下1階)	1/19(金)、22(月) ペデ下ヒルトップ前にて
後樂園キャンパス	1/19(金)、1/24(水) 3号館1階コミュニティホール	1/19(金)、22(月)、24(水) 5・6号館の間にて
市ヶ谷田町キャンパス	1/22(月) 1階エントランスホール	—
茗荷谷キャンパス	1/17(水)～31(水) ※休日を除く 1階正面入口オープンスペース	1/19(金)、22(月)、23(火)、25(木) 1階正面入口オープンスペース



## ● 能登半島地震震災復興支援ボランティア

能登半島地震の被災地支援として、石川県羽咋郡志賀町および石川県鹿島郡中能登町にてボランティア活動を実施しました。

第1クール	実施日	内容	参加者
	3/4(月)～6(水)	・被災家屋から畳・瓦・家具・電化製品等を搬出し、災害ゴミ置き場へ搬入	学生 17 教員 1
第2クール	実施日	内容	参加者
	3/17(日)～19(火)	・被災家屋から畳・瓦・家具・電化製品等を搬出し、災害ゴミ置き場へ搬入 ・海岸清掃(津波により海岸へ打ち上げられたゴミを集める)	学生 17 教員 2



### 学生の声

実際に、家屋が倒壊している様を見るのはあまりにも心にくるものがあった。圧倒的にボランティアの人手が足りないと思った/実際に直接支援することで、被災者の方々の力になれたことがわかって嬉しかった/ボランティアの概念が180度変わった。自分はむしろ手えられている。人は助け合って生きていくということ。人生は何があるかわからずまだ自分の知らないことを目で見るといいということ。たくさん感情が込み上げてきた。

## ② 多摩キャンパス周辺の地域活動

### ● 八王子チャリティーウォーク & ごみ拾い

「歩く国際協力 Walk in her shoes 2023」(公益財団法人ケア・インターナショナルジャパン主催)に参加するかたちでチャリティーウォークを実施しました。学生スタッフが企画から当日のファシリテーションを務めました。イベント趣旨を理解するためのクイズを設けたり、同時にごみ拾いを行ったりといった学生のアイデアが活かされ、キャンパス周辺地域への愛着を持つとともに国際貢献ができるプログラムとなりました。

プログラム	日時	参加者
八王子チャリティーウォーク	5/20(土) 13:30～16:30	学生 8

### 学生の声

楽しんでキャンパス周辺を歩きながらも、途上国の方に支援できるなんてとてもよかった。

### ● クリーン大作戦

毎年恒例で春と秋に行っている多摩キャンパス周辺の清掃活動を実施しました。自治会の方々との交流を楽しみながら、自分たちが日常において使う道路やその周辺を清掃しました。

プログラム	日時	参加者
クリーン大作戦・春の陣	5/28 (日) 9:00～11:00	学生 12 職員 1
クリーン大作戦・秋の陣	11/26 (日) 9:00～11:00	学生 12 職員 1

### 学生の声

普段使っているキャンパスの近くもゆっくり歩いたことがなかったので、地域の方々や他学部の学生と話をしながらボランティアができてよかった/落ち葉拾いで道路もキレイになったし、心もキレイになった気分。



【八王子チャリティーウォーク】



【クリーン大作戦・春の陣】



【クリーン大作戦・秋の陣】

## ● CVC 夏ボラ

今年度も、夏休み期間に様々な分野のボランティア活動を体験できる夏ボラを実施しました。学生スタッフを中心となり受け入れ先と調整しながら企画を進めていきました。事後勉強会をプログラム終了直後に実施したことで、より考えの深まる活動とすることができました。

プログラム	日時	協力・場所	内容	参加者
1 福祉編	8/4 (火)、25 (金) 10:00～17:00	東京光の家 (東京都日野市)	視覚障がい者施設にて利用者の方と一緒に作業(缶バッジの制作、点字の本の並び順の確認、お菓子の箱作り等)	学生 5 職員 1 (両日ともに)
2 子ども×福祉編	8/28 (金) 15:30～20:00	ほっこり食堂 (東京都八王子市)	子ども食堂の運営手伝い(食事作り、配膳、片づけ、子どもとの交流)	学生 6 職員 1
3 子ども×農業編	9/2 (土) 9:00～15:00	コミュニティガーデンせせらぎ農園(東京都日野市)	みさわ児童館で公募した親子と一緒に農作業、収穫した野菜でピザを焼いて食べる、農園の探検ツアー	学生 15 職員 1
4 子ども×地域編	9/17 (日) 9:00～17:00	コミュニティプレイス愛宕(東京都多摩市)	高齢化の進んだ地域交流拠点にて子ども向け緑日イベントの企画・運営(輪投げ、射的等)	学生 10 職員 1
5 環境編	9/4 (月)	フュージョン長池(東京都八王子市)	環境整備、里山保全作業	※雨により中止



【東京光の家】



【せせらぎ農園】



【コミュニティプレイス愛宕】

### 学生の声

障害を持つ人への先入観が一瞬で打ち破られた。普段関わることがない方と関わることに躊躇はつきものだが、それを乗り越えて自分の世界を広げていく楽しさを感じることができた/こんなに屋外で自然に囲まれ、獲れたての野菜でピザ作りをするなんて貴重な体験ができた。

## ● 空きコマボランティア

学生スタッフの発案により、空きコマを利用して気軽に取り組むことができる「空きコマボランティア」を実施しました。今年度は、「使用済切手を整理し、NPOへ寄付する」活動を行いました。約1.6kgの切手を認定NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC)に寄付しました。

日時	場所	参加者
11/27 (月)～12/1 (金) ※土日除く 10:50～15:00 (2限、昼休み、3限)	多摩キャンパスボランティアセンター	学生 55(延べ)



### 学生の声

「気軽に参加できるボランティア」を目指して企画を行いました。「ボランティアに興味はあるけどいきなり泊まりとかはハードルが高い」「空きコマの時間を有効活用したい」という意見が多く、学生にもニーズがあったことを知ることができ良かったと感じました。



## ● CVC 春ボラ

夏ボラに続き、春休み期間にも様々な分野のボランティア活動を体験できる春ボラを実施しました。学生スタッフの声からこれまでにない企画が立ち上がり、学生たちにとってやってみたいことを具現化させることの大変さを学ぶとともにその達成感を得られる貴重な体験となりました。

プログラム	日時	協力・場所	内容	参加者
1 子ども×地域編	2/3 (土) 10:00～17:00	コミュニティプレイス あたご (東京都多摩市)	地域の居場所にて餅つき、節分豆まきイベント	学生 9 職員 1
2 子ども×農業編	3/2 (土) 9:00～17:00	せせらぎ農園 (東京都日野市)	コミュニティガーデンにて子どもたちと体験学習、農作業	学生 13 職員 1
3 子ども×平和編	3/9 (土) 9:00～17:00	永山公民館 (東京都多摩市)	多摩市役所主催の平和イベントにてワークショップ開催	学生 9 職員 1
4 福祉編	3/16 (土) 9:00～17:00	愛宕かえで館 (東京都多摩市)	地域の方々を対象としたパラスポーツフェスタの企画運営	学生 9 職員 1
5 子ども×国際編	3/20 (水) 10:00～17:00	堀之内こぼし緑地 (東京都八王子市)	たけたま祭りにて国際理解協力を学ぶワークショップのブース出展	学生 8 職員 1



【平和イベントにて紙芝居読み聞かせ】



【パラスポーツフェスタ】



【国際理解協力に関するブース出展】

### 学生の声

子ども、保護者、施設の方とも想像以上にコミュニケーションを取り続ける一日となった。子どもたちの生き生きとした姿を見ることができ、学びの場は学校に限らないのだと改めて認識した。パラスポーツや障がいのある方に対する理解を深めることができ、よりみんなが過ごしやすかったり、意見を共有したりすることで、良い社会になると感じました。

## ● その他

2022年度から始まった、多摩市のコミュニティーセンターのひとつ「愛宕かえで館」の運営協議会の皆さんとの連携プロジェクトを継続して行いました。企画・準備から地域の皆さんと創り上げ、達成感のあるプログラムとなりました。また、八王子市由木地域にて継続して実行委員として関わっているイベント「大栗川キャンドルリバー」でも、本学の多くの学生がボランティアとして運営に参加しました。学生スタッフが積極的に関わり、参加学生の取り纏め等の活躍をし、地域の方々とのさらなる交流へとつながることができました。

プログラム	実施日	内容	参加者
中大学生とあそぼう！ 夏休みクイズラリー in 愛宕かえで館	8/19 (土)	多摩市のコミュニティーセンターが実施するお祭りイベントの運営手伝い	学生 23 職員 1
大栗川キャンドルリバー	11/12 (土)	八王子市由木地域のイベントにて、企画・運営の手伝い	学生 13 職員 1
	11/13 (日)	イベント翌日の清掃	学生 4



【愛宕かえで館イベント】



【大栗川キャンドルリバー】

### 学生の声

世代を越えて一つのものを作り上げていくことの難しさを感じるとともに、交わりつながらりを持つことによって視野が広がることに気づくことができました。

## ③ 都心キャンパス周辺の地域活動

法学部移転に伴い、2023年度に2つめのボランティアセンターが都心キャンパスにできたことから、都心地域で、8種類の新しい主催ボランティアプログラムが開催されました。都心キャンパスでは、学生スタッフ制度を設けず、主催プログラムのたびに企画学生を募集するプロジェクト制度をとっているのが特徴です。

## ● 文京区チャリティーウォーク & ごみ拾い

「歩く国際協力 Walk in her shoes 2023」(公益財団法人ケア・インターナショナルジャパン主催)に参加するかたちでチャリティーウォークを実施しました。公認学生団体りこボラ!を中心に、学生が後樂園キャンパス、茗荷谷キャンパス、市ヶ谷田町キャンパスをめぐる企画をつくり、当日の運営をつとめました。

プログラム	日時	場所	参加者
文京区 チャリティーウォーク	5/21 (日) 13:30～16:30	後樂園キャンパス 茗荷谷キャンパス 市ヶ谷田町キャンパス ほか	学生 23



## ● 夏ボラ・「こどもボランティア in 文京」

学生が「ボランティアを探して活動する」プログラムを実施しました。夏休みを活用し、ボランティアセンターに集まっている沢山のボランティア情報をもとに、気になる活動を探し、グループをつくります。見学し、どのようなボランティアを行うか決めて、実行に移します。「地域の祭りにかかわる」、「小中学生の夏休み宿題支援と居場所づくり」、「障がい者サッカーのサポート」の3つのグループができ、いくつかの活動に派生し、貢献活動を行いました。

プログラム	実施日	場所	参加者
こどもボランティアin文京	8/2 (水)～9/18 (月)	茗荷谷 ボランティアセンター	学生 43 (延べ)



### 学生の声

ボランティアを探すという経験をしてこなかったので、今回のプログラムは大変新鮮で、難しくもあった。探す以上、自分が何をしたいのか、といったところを明確にする必要があり、日頃から問題意識を持ち、自分のアプローチしたい範囲の解像度を上げておくことが重要だと考える。また、無理なように思っても行動することの重要性というのも実感した。というのも、私の参加した「文京思い出横丁 in 傳通院」のボランティアは募集が終了していると聞いたので、参加は不可能と一時は思われた。しかし、大会責任者の方に連絡を取ったところ当日ボランティアを募集していることが判明した、ということがあったからだ。駄目だと思われることに対しても主体的に行動することもまた、探すということにはとても重要なことであると学んだ。

## ● 夏ボラ・「中大生と一緒に勉強し一緒に遊ぼう」

「こどもボランティア in 文京」から派生した企画として、学生が茗荷谷地域の子どもたちを対象に、夏休み期間の居場所づくりを企画し、「中大生と一緒に勉強し一緒に遊ぼう」を実施しました。勉強のサポートとともに、謎解き学校探検とビンゴ大会といった遊び時間を織り込むことで、勉強に飽きない工夫をしました。勉強に集中できるスペースも準備しました。学生が児童館、育成室、地域のお祭りにて広報を行い、38名の小学生が来室しました。

プログラム	実施日	場所	参加者	来場者
中大生と 一緒に勉強し 一緒に遊ぼう	企画:8/ 3(水)～8/28(月)	茗荷谷 ボランティアセンター	学生39 (延べ)	小学生 38 保護者 3
	運営:8/28(月)	大塚地域活動センター・ 中央大学茗荷谷キャンパス構内	学生 7	



### 学生の声

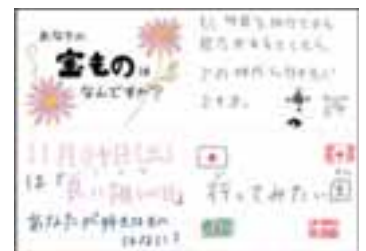
企画の準備から当日までを通して、企画をゼロから考えることの大変さと同時に、やり終えた後の達成感を味わいました。時間や手間暇をかけて企画したイベントを目の前の子どもたちが楽しんでくれている姿を見て、とても嬉しかったです。どのくらい子どもたちが来てくれるか分からず、予行練習などもない為、準備の時点で様々なことを想定して計画を立てていきました。当日まで不安なことが沢山ありましたが、他の学生と助け合い、乗り越えることができました。



## ● 「地域の方々とのお茶会」

茗荷谷近隣地域にお住まいの方々とのお茶会を開催しました。企画を行ったのも運営したのも学生です。カードを引いてテーマトーク、利き茶、仮想 OK の地元トークといったコンテンツを決めて準備し、当日を迎えました。6名の地域の方々の参加があり、途中席替えを行いながら、少人数のなごやかな温かい会となりました。

プログラム	実施日	場所	参加者	来場者
地域の方々 とのお茶会	企画:10/12(木)～11/ 4(土)	茗荷谷 ボランティアセンター	学生36 (延べ)	地域の 方々6
	運営:11/ 4(土)	大塚地域活動センター	学生10	



### 学生の声

一期一会で地域の方々和やかに話せるよう、時間をかけて準備した。実際にお茶会がはじまると、企画を飛び越え話が展開していくのが印象的だった。あらかじめ準備したトークテーマが発端となりほかの話に展開して花が咲いたり、ふだん聴けないようなお話をうかがうことができ、企画開催してよかった。また開きたい。次回は来場者の解像度をあげ、グラウンドルールをよりよくしたい。

## ● XFOOD（クロスフード）～食に関する情報共有の会～

食に関する社会貢献活動に関心がある学生がボランティアセンターに集まり、月に1～2回、対面またはオンラインの情報共有・交換を行っています。食に関する貢献活動とは、たとえば、こども食堂、こども宅食、フードバンクなどをさします。共有会をきっかけに声を掛け合い、こども食堂への参加につながったり、農業ボランティアへの興味がでてくるなど、さまざまなボランティア活動へ展開しています。

プログラム	実施日	場所	参加者
XFOOD(クロスフード) ～食に関する情報共有の会～	11/6(月)～3/19(火) 9回	茗荷谷ボランティアセンター、 Zoom	学生 80(延べ)

## ● 茗荷谷「こども実験教室」

12月は茗荷谷キャンパス2階の大塚地域活動センターオープンスペースにて、3月はキャンパス近隣の文京区立小日向台町児童館において、地域の小学生向けの実験教室を開催しました。文京区はこども人口増加地域で、実験教室はこどもやファミリーの期待が大きく、多くの応募があります。こどもが手を動かして確かめられるふしぎ楽しい教室をめざし、学生はそれぞれ創意工夫をこらし、きめ細やかな教室を開きました。

プログラム	実施日	場所	参加者	来場者
めざせ！かがくはかせ ～層になる液体のふしぎ～	準備:11/20(月)～11/30(木)	茗荷谷 ボランティアセンター	学生15	こども30,保護者25, 見学幼児6
	運営:12/ 2(土)	大塚地域活動センター	学生12	
めざせ！かがくはかせ ～色の分解実験クロマトグラフィー～	準備: 3/18(月)～3/22(金)	茗荷谷ボランティアセンター	学生12	こども 30
	運営: 3/26(火)	文京区立小日向台町児童館	学生 11	



### 学生の声

子どもとコミュニケーションがとれるか不安だったが、始まると自分も子どもも実験に集中し、会話がはずんで心配はいらなかった/自分の説明が適切だったか、子どもからダイレクトな反応があるのですぐに確かめられた/複数のコンテンツを自分の裁量で選び組み立てを考慮されて楽しい/相手のこどもの学年が直前までわからないため、学年によって2通りの組み立てを考慮しておいたことが功を奏した/こどもは大人が代わりにしてしまうととても悔しいのだとわかった。できる限り本人が行うよう設定することが肝要/予定とは異なる実験をこどもがしたいと希望するなど予想外の事がいくつも起こった。どうしようか迷ったがこどもの意思を受け入れてその方向で実験をした。おもいがけない発見があり子どもは段々落ち着いていった/実験がうまくいかなかった子どもへの対応に悩んだ/大学生1人でこども2～3人がベストの人数/自作のワークシートの効果を確認することができた



## ● 絵本よみきかせ「ねずみの会～チュー大生のおはなし、おはなし」

近隣の文京区立小石川図書館において、小学生と幼児を対象に、絵本よみきかせ「ねずみの会～チュー大生のおはなし、おはなし」を開催しました。絵本の選定、ネーミング、ポスター作成、会場の環境づくりまで、学生がすべて企画しました。それぞれの入口に今日よむ絵本がわかるよう提示し、3タームにわけてよみきかせを行いました。子どもたちに行きたい部屋を選んでもらいました。子ども24名、保護者9名が来場、子どもたちが入口の絵本をみながら部屋を選び、途中で移動しながら、和やかな雰囲気の中よみきかせを行うことができました。

プログラム	実施日	場所	参加者	来場者
絵本よみきかせ ねずみの会 チュー大生のおはなし、おはなし	企画:12/20(水)～3/29(金)	ボランティアセンター、オンライン、 小石川図書館	学生29(延べ)	こども24 保護者 9
	運営: 3/30(土)	小石川図書館	学生 9	



### 学生の声

0 から 100 まで全部を自分たちでつくった実感がある/子どもたちのいきいきとした反応や発言にたくさんの気づきがあった/子どもが帰り際に気に入った絵本を借りて帰ってくれたのが嬉しかった/会場設定も手作りでいい自分も子どもに戻ったようで楽しかった/移動には時間がかかり、かなり大変そうにみえたので、途中の会場移動は無しにしたほうがよかったのかもしれない/一方で、どの本にしようか真剣に悩んで決める子どもたちは、悩むことも含めて楽しそうだったし生き生きとしていたので、選べる形にしてよかったのではないかと



## ● 法学部入試合格者対象 在学生によるなんでも相談会

法学部入試合格者対象茗荷谷キャンパス見学会にて、入試合格者との個別相談会を開催しました。35名の合格者が相談に訪れ、学生への相談内容はサークルなどのキャンパス間の交流、勉強の仕方、履修、友人のつくり方、アルバイト、キャリアなど多岐にわたりました。

プログラム	実施日	場 所	参加者	来場者
法学部入試合格者対象 在学生によるなんでも相談会	企画:2/ 2(金)~2/25(日)	オンライン	学生32(延べ)	生徒約35 保護者数名
	運営:2/26(月)	茗荷谷キャンパス教室	学生 6	

### 学生の声

自分たちにとって合格者にとってもいい機会だったと思う/好きなタイミングで退席してよいと伝える工夫があったほうがよかった/希望生徒が多く、今後は制限時間を設けることを検討したい/自分の1年生の時間割(授業、アルバイト、サークル)を話すと大学生活のイメージが伝わりやすい/人数が増えると気軽に質問できる空間というコンセプトから遠ざかり来場生徒が消極的になってしまったところがあった。少人数や個別の相談ができるよう設計するにはどうしたらよいか



## ④ 講座・ワークショップ・交流会

### ● 連続ボランティア講座

社会課題に取り組むボランティアを知り、自分のキャリアにどのようにつなげていくかを考えるきっかけとすることまた様々な立場から社会課題に取り組む方の話を聞き、自分のボランティアキャリアについて考えるきっかけとすることを目的に、全3回にわたる講座を実施しました。

#### ①『公務員に求められる力』とボランティア活動 就活や公務員試験で問われること

日 時	内 容	講 師	参加者
6/23 (金) 17:00~18:10	公務員を経て現在はキャリア学を教える滝井氏より、公務員に求められる力と、それを身につける方法、大学生だからこそできることを話していただく	滝井 元視 氏 (キャリアコンサルタント)	学生 16 職員 2

#### ②持続可能な未来の水産業への挑戦！海の豊かさと水産業を守るために

日 時	内 容	講 師	参加者
6/30 (金) 17:00~18:10	SDGs 目標 14『海の豊かさを守ろう』にもあるように、日本の一次産業を代表する水産業の実態を変えるべく、様々なアイデアで革新的な活動をしている漁師軍団・フィッシャーマンジャパンの多様な取り組みから、未来へのアイデアやヒントを学ぶ	松本 裕也 氏 (一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン)	学生 9 職員 2

#### ③ボランティア経験をどのように社会で活かすか？卒業生の活躍から学ぶ

日 時	内 容	講 師	参加者
7/7 (金) 17:00~18:30	学生時代のボランティア経験をどのように自分の中で振り返り、今後の人生へ繋げていくのか。本学卒業生より、ご自身の学生時代の過ごし方、ボランティアで何を得て卒業後の進路にどう影響し、卒業後のキャリアに繋がっていったかを話していただく	吉田 沙織 氏 (岩手県庁) 山岸 亮太 氏 (花まる学習塾)	学生 19 職員 1



### 学生の声

行政職志望なのですが、なぜボランティアが必要かわからなかったのが、議論の話題を大学生でも考えやすいテーマにしてくださり、とても楽しい講演会でした。ボランティア活動を一年してきて慣れてきた反面、自分の中でマンネリ化してしまっている面がありました。しかし今回の講座で、迷いながらも自分のできる範囲で活動しながら軸を探していくこと、自分がやりたいこと、好きなこと、場所に出会いに行くということを学び、自分から動くことの大切さを学ぶことができ、いろんなことに気づかされました。

### ● 傾聴 & コミュニケーション講座

学生相談室カウンセラーの竹部先生に講師としてご協力いただき、気持ちのいい聞き方・話し方とはどういったものか、「傾聴」の基本姿勢とコミュニケーションのコツについて、グループワークを交えて学びました。参加者には過去に参加経験のある学生も含まれており、1年前に聞いた内容でもあらためて聞くことで理解が深まる、前回と違う感じ方ができた等の感想がありました。

日時	場所	講師	参加者
7/1 (土) 13:30～15:00	多摩キャンパス フォレスト グレートウェイ CHUO	竹部 友子 氏 (学生相談室カウンセラー・臨床心理士)	学生 26 職員 2



### 学生の声

アサーティブなコミュニケーションについて再度学べたので大変いい機会だった。グループワークもあり、他の人の素敵な考えも取り入れながら考えることができた。

## ● 写真洗浄ワークショップ

学内でできる復興支援として、写真洗浄ボランティアを検討しているが、まずは写真洗浄ボランティアの活動を知ることを目的として、福井圭一氏（真備町写真洗浄あらいぐま岡山・顧問）を講師に迎え、写真洗浄の目的や意義を教えてください、実際に写真洗浄を体験しました。

日時	場所	参加者
12/9 (土) 13:30～16:30	多摩キャンパスフォレストグレートウェイ CHUO	学生 31 職員 1



### 学生の声

一作業一作業丁寧に行われていて、順番を気にかけてたり、撮影した意図を考えたり、こんなにも人を思って寄り添うボランティアはなかなかないのではと思った/人の思い出が詰まった写真だからこそ、大切にきれいな状態で残したいという気持ちになりました。ワークショップを通じて、災害や被害に遭った地域のことも学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。

## ● 「ただいま、つなかん」上映会&学生トークイベント

日本財団ボランティアセンターが制作したドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」の上映会および映画の舞台である気仙沼を活動先とする公認学生団体 面瀬学習支援の学生による体験談の紹介、参加者同士の感想共有を行いました。

日時	場所	参加者
12/23 (土) 14:00～16:30	茗荷谷キャンパス 1階 特大教室(1W01 教室)	学生 20 附属中高生 1 教職員 6



### 学生の声

学生の声：今回ボランティアをする方たちと感想共有をしてみて、すごく大変なことを頑張っているというよりも、とても貴重な経験をして新たな学びを得ている人が多いのだと感じました/私たち面瀬学習支援の活動においても、現地からのニーズに応えるために、気仙沼のことを学び、現地の方々と信頼関係を築いていきたいと感じました。

## ● コーディネーターによる相談・説明会

ボランティアに関するさまざまなトピックを説明したり、学生に紹介する相談会などを行っています。

テーマ	日時	場所	参加者
ボランティアってどんなもの？ (コーディネーターより説明)	4/26 (水) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 4 職員 1
	4/28 (金) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 4 職員 1
分野別ボランティア紹介 農業・環境・子ども編 (コーディネーターより説明)	5/ 9 (火) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 2 職員 2
	5/11 (木) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 8 職員 1
分野別ボランティア紹介 国際・地域活性化・福祉・災害編 (コーディネーターより説明)	5/15 (月) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 3 職員 1
	5/17 (水) 12:40～13:10	オンライン(Zoom)	学生 5 職員 1
ボランティア相談 WEEK	7/19 (水)～20 (木) 7/25 (火)～28 (金)	茗荷谷キャンパス ボランティアセンター	学生 11 職員 1
	9/27 (水)～29 (金) 10/ 2 (月)～ 3 (火)	茗荷谷キャンパス ボランティアセンター	学生 14 職員 1
		多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 8 職員 1

## ●交流会

学生発信により、ボランティアや社会課題に関心のある学生に体験談を話をする交流会を行っています。

テーマ	日時	場所	参加者
ボランティア体験談バージョン① 学生より宮城県丸森町での活動を紹介	7/ 3 (月) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 7 職員 1
ボランティア体験談バージョン② 学生より障がい者マラソン伴走の活動を紹介	7/12 (水) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 6 職員 1
アートカフェ	7/12 (水) 12:40～13:10	茗荷谷キャンパス ボランティアセンター	学生 1 職員 1
哲学カフェ	7/13 (木) 12:40～13:10	茗荷谷キャンパス ボランティアセンター	中 止
夏休み前のボランティア説明会 ・学生より体験談を共有 ・コーディネーターよりボランティア紹介	7/14 (金)	多摩キャンパス ボランティアセンターまたは オンライン(Zoom)	学生 16 職員 1
昼トーク 「現役3年生による法学部ゼミ選びお悩み相談会」	10/10 (火)	茗荷谷キャンパス ボランティアセンター	学生 5 職員 1
ボラカフェ WEEK ① 学生より体験談を共有 ・子ども食堂（ほっこり食堂） ・地域づくり（コミュニティプレイス愛宕）	10/16 (月) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 4 職員 2
ボラカフェ WEEK ② 学生より体験談を共有 ・視覚障がい者施設（東京光の家） ・国際ワークキャンプ（島根県平田市） ・子どもと農作業（せせらぎ農園）	10/17 (火) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 4 職員 2
ボラカフェ WEEK ③ 学生より体験談を共有 ・子ども学習支援（面瀬学習支援） ・地域づくり（コミュニティプレイス愛宕） ・子ども学習支援（神奈川県横浜市） ・島おこし（鹿児島県徳之島）	10/19 (木) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 6 職員 2
ボラカフェ WEEK ④ 学生より体験談を共有 ・子どもと農作業（せせらぎ農園） ・国際ボランティア（マレーシア）	10/20 (金) 12:40～13:10	多摩キャンパス ボランティアセンター	学生 7 職員 2
春休み前のボラカフェ ・学生より体験談を共有 ・コーディネーターよりボランティア紹介	1/26 (金) 10:30～12:00	多摩キャンパス ボランティアセンターまたは オンライン(Zoom)	学生 19 職員 1



## ⑤シンポジウム

### ● 10周年記念シンポジウム『変わったもの、変えたもの、これから』

2013年度にボランティアセンターが発足して以降、被災地での現地活動をはじめ、ボランティア活動に取り組む意欲のある学生の支援を行ってきました。2023年度は10年の節目を迎えるため、これまでの活動を振り返り、ボランティアセンターが成し得た成果・実績を報告するとともに、ボランティアセンターがめざす将来像を学内外関係者へ発信するイベントを実施しました。



日時	内容	場所	参加者
9/16 (土) 14:00 ~ 16:00	<第1部> これまでの10年間 動画・コーディネーターから見たボランティアセンター <第2部> トークセッション 「地域にかかわる / 地域で変わる」 Vision について <第3部> ワークショップ 「あなたが大事にしたい地域 (コミュニティ)」	茗荷谷キャンパス 1階 特大教室	参加者 78

## 連携事業 活動報告

### ● 茗荷谷町会ハロウィン祭り

茗荷谷キャンパス近隣の茗荷谷町会（自治会）では約300人の子どもが参加するハロウィン祭りが開催されています。町会との連携プログラムとして、ハロウィン祭りにおいて、学生が子どもたちの引率や運営サポートのボランティアを行いました。また、白門祭実行委員会がチェックポイント拠点協力も行いました。

プログラム名	実施日	場所	参加者
茗荷谷町会ハロウィン祭り (連携)	こどもの引率:11/5(日)	小日向台町小学校、 中央大学茗荷谷キャンパス等、茗荷谷エリア	学生 17
	チェックポイント拠点協力: 9/12(火)~11/5(日)		学生 7



#### 学生の声

子どもたちの引率では、子ども的人数が非常に多く、かなりごった返した中で、臨機応変さや柔軟性が求められた。皆かなり頑張ったと思う。子どもたちの笑顔が励みになった。

### ● 茗荷谷育成室ハロウィンクイズラリーイベント

茗荷谷キャンパス2階の茗荷谷育成室（学童施設）との連携プログラムとして、白門祭実行委員会と育成室との協働企画「小学生ハロウィンクイズラリー」を茗荷谷キャンパス構内にて開催しました。初めての試みのためボランティアセンターがコーディネート、最後まで伴走しました。次年度からは白門祭実行委員会と育成室との直接協働になる予定です。

プログラム名	実施日	場所	参加者
茗荷谷育成室ハロウィンクイズラリー(連携)	企画:10/3(火)~11/2(木) 運営:11/2(木)	中央大学茗荷谷キャンパス構内	学生 23(延べ)



#### 学生の声

地域の子どもの感謝の声、笑顔あふれる様子を見て、イベントを実施してよかった。子どもの笑顔に癒された。今後も続けていきたい。

### ● 第一中学校学習支援ボランティア

茗荷谷キャンパス近隣の文京区立第一中学校との連携プログラムとして、学生が数学、英語、理科の正課授業に入り、生徒の学習サポートを行うティーチングアシスタントを行いました。

プログラム名	実施日	場所	参加者
第一中学校学習支援(連携)	12/19(火)~2月下旬	文京区立第一中学校	学生 16

# 学生スタッフ・公認学生団体 活動報告

## ■学生スタッフについて

2021年度より発足し、本年度は第3期生を迎えて活動を行いました。多摩キャンパスを拠点とし、ボランティアセンターの教職員とともにボランティアセンター主催活動の企画・運営に携わっており、本学学生へボランティアの魅力を伝える役割を担っています。

## ■公認学生団体について

学生部では、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、継続的に被災地支援のボランティア活動を行う学生を支援しています。2012年4月からは、「被災地支援学生団体ネットワーク」を設立し、特定の狭い場所と継続的に関係を持つ学生団体を支援する体制へと移行しました。2017年4月からは、名称を「ボランティアセンター公認学生団体」と改め、被災地に限らず多摩地域や都内等キャンパス周辺での活動を継続的に展開する団体も公認し支援することとしました。

名称	創設	主な活動地	活動内容
面瀬学習支援	2012年～	宮城県気仙沼市	子ども支援
チーム防災	2015年～	東京都日野市	地域防災の啓発
りこボラ!	2015年～	東京都文京区	中央大学生のボランティア支援
ふらっと真備	2018年～	岡山県倉敷市真備町	コミュニティ支援 ※2023年5月10日付活動収束

## ■学生スタッフ・公認団体対象の学び・交流企画

学生スタッフ、公認学生団体を対象に、ボランティアセンター主催の集会を年に数回実施しています。団体や個人の目標設定、振り返り等、それぞれのタイミングで課題や問題意識を共有し、解決に向けた機会を提供しています。また、団体間の横のつながりを持ち、お互いのモチベーションアップを図る機会にもなっています。

名称	日時	内容	参加者
スタートアップ会	5/6 (土) 14:00～16:00	各代表より昨年度の振り返り・課題・今年度の目標を発表、コーディネーターよりフィールドノートの説明、フィールドノートを使用して昨年度の振り返り、グループワーク	学生 28 教員 1 職員 2
夏季ボラセン会	7/1 (土) 15:10～17:00	新入生とスタートアップ会欠席者を対象とした目標設定・交流 2～4年生のスタートアップ会参加者を対象としたグループ対話	学生 26 教員 1 職員 2
振り返り交流会	10/7 (土) 14:30～16:30	自己紹介、自分の目標に対する振り返り・共有、テーマに沿って話し合い・全体共有	学生 17 教員 1 職員 2
4年生による企画	1/31 (土) 14:00～16:00	テーマを持ったテーマトークを通じた交流、ボランティアとの向き合い方、ボランティアとキャリア	学生 20



【スタートアップセミナー】



【夏季ボラセン会】



【振り返り交流会】

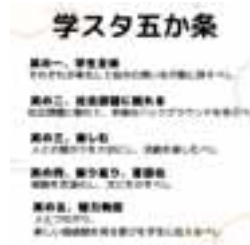
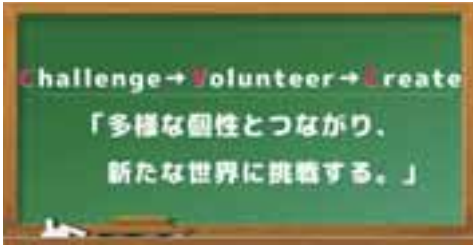


# ①学生スタッフ

## 学生スタッフ（多摩キャンパス）～多様な個性とつながり、新たな世界に挑戦する～

### ■団体理念

学生スタッフは、本学の学生がボランティアに興味を持ち、一步を踏み出すためのきっかけを作り出す存在です。様々な社会課題に対して、対象者の居場所やつながりを作ることで、その解決を目指します。ボランティアを通して、学生だからできることを最大限活かしつつ、自らも楽しんで成長しながら地域と学生のつながりを築き上げていきます。



### ■団体構成

19人（4年生 5人、3年生 6人、2年生 6人、1年生 2人）

### ■活動

- ①ボランティアプログラムの企画・運営  
連続ボランティア講座の司会、夏ボラの企画など、学生主体でボランティアの企画・広報、イベントの調整を行います。
- ②地域ボランティア活動の推進  
キャンパス周辺において、地域の方々と連携をしながら、企画から当日の準備・運営まで行っています。
- ③ボランティア活動を推進する活動全般  
①、②の活動を盛り上げるための取り組みです。具体的には、SNSでの広報や白門祭での出展があります。今後は新たな分野別のプロジェクトチームを通じて、中大生との架け橋となれるよう、活動しています。

活動	実施日	内容	参加者
愛宕第二住宅 オープンイベント	5/13 (土)	愛宕第二住宅の切り絵ブース出展	学生 6 職員 1
夏合宿	9/6 (水) ~ 9/8 (金)	前期の振り返り、シンポジウムの運営、白門祭、後期の目標、組織体制について話し合い	学生 14 職員 1
TAMATAMA フェスタ	10/21 (土)	キッズコーナーの企画・運営（空き缶釣りゲームを実施）	学生 6
愛宕ハロウィンイベント	10/31 (火)	地域の方々と、ハロウィンの仮装をして、お菓子をもらいに歩く	学生 5
白門祭	11/3 (金) ~ 11/5 (日)	レモネードスタンド（小児がん支援）	学生 16
春合宿	3/13 (水) ~ 3/15 (金)	今年度の個人・各班振り返り、組織としての振り返り、来年度の目標・方針について話し合い	学生 10 職員 1

### ■カワジャ たはイムラン（学生スタッフ2023年度代表・経済学部2年生より）



2023年の学生スタッフの活動を振り返ってみて感じるのは、今年は様々なものを創ってきたなということです。コロナ期に活動が本格化してから約2年が経過し、活動の幅は広がり、学生スタッフの人数も増えました。ある意味では自分たちのやっていることが企画を通じて新しい意味をとらえてボランティアを創ったのではないかと思います。学期中に企画した「空きコマボランティア」では学部も様々、学年も様々な学生が参加してくれました。みんなが真剣にそして楽しんでボランティア活動を行っている姿を見た時に、私はとても嬉しかったです。学生スタッフのみんなが忙しい時間を縫って、ボランティア活動を広めようとした結晶がそこに現れている気がしたからです。中央大学の学生が気軽にボランティア活動に参加し、その意味合いを自分たちで咀嚼して、ボランティアの輪を広げていきたいと思っています。

### ■明石 ことみ（学生スタッフ2023年度副代表・総合政策学部3年生より）



新型コロナウイルスによる沢山の制限が緩和された2023年度は、ボランティアセンターにとっての再スタートの年となりました。マスクの無い日常が戻りつつあり、ボランティアの場面においても参加学生や地域の方、子供たちの笑顔が光り、一層やりがいを感じられる活動になったと思います。

3年目となる学生スタッフは、組織の方向性やボランティアの企画・運営に試行錯誤しながらも、年間を通して急成長できたと思います。幹部や先輩メンバーという壁を越え、ミーティングの運営に全員がチャレンジしてみたり、空きコマボランティアや白門祭の飲食ブース出店などの新規企画も大変盛り上がりました。また、ボランティア以前に「当たり前のことを当たり前でできる組織」を目指し、メリハリのある組織運営にも注力しました。

2024年度も、学スタ5か条を追求し、中大生や地域を巻き込めるような存在感のある組織へと更に成長していきます。

## 2 公認学生団体

### 面瀬学習支援 ～共に学び、共に描く、ふるさとの未来図～

#### ■ 団体理念

「学校とも家族とも違う、子ども達のための第3の居場所をひらく」  
面瀬学習支援は、震災復興のために大人が慌ただしく過ごすようになった中で、地域の方の「子どもが子どもらしくなくなった」という言葉がきっかけで発足し、先生や親や友達のような立場でもない、お兄さん・お姉さんのような「ナナメの関係」を築くことで、子どもの本音を拾う居場所となることを目指しています。発足から10年以上経過し、改めて現地の方に聞き取り調査を行った結果、地区の様々な課題や子ども達への支援の重要性を知ったことで活動の必要性を再確認し、今後は「子ども」を主軸に捉えた活動へと発展させ、理念の根幹にある居場所をつくるために活動していきます。

#### ■ 団体構成

31人（4年生2人、3年生10人、2年生10人、1年生9人）

#### ■ 活動

私たちは宮城県気仙沼市面瀬地区の小学生を対象に、宿題指導・レク企画・自由遊びを中心とした居場所支援活動を行っています。普段の活動では、多摩と茗荷谷の各キャンパスで週1回ずつミーティングを開いています。コロナの拡大も治まりつつある現在では、現地での活動も段々と自粛前の活気を取り戻しています。2023年度の活動では、宿題指導やシャッターペイント、福笑い・コマ作りなどの企画を通して子供たちと交流しました。特に冬活動でおこなった焼き芋企画では、地域の方々の協力もあり、多くの子供たちの笑顔を引き出すことができました。

活動	内容	実施日	参加人数
夏活動	気仙沼スタディーツアー、面瀬小学校の児童を対象とした学習支援・レクリエーション（縁日、シャッターペイント）、地域の夏祭りの手伝い	8/17（水）～ 8/20（土）	学生 20 教員 2
冬活動	面瀬小学校の児童を対象とした学習支援・レクリエーション（焼き芋・福笑い・コマ作り）	12/26（月）～ 12/29（木）	学生 17 教員 1
春活動	面瀬小学校の児童を対象とした学習支援・レクリエーション（シャボン玉、イースター企画）	3/28（木）～ 3/30（土）	学生 8

#### ■ 向山 綾乃（面瀬学習支援 2023年度代表・商学部3年生）より



今年度はコロナウイルスの影響も落ち着き、現地の子供達との距離がさらに縮まった1年だったと思います。シャッターペイントやかき氷、焼き芋などコロナ前のような企画も増え、子ども達に様々な体験や交流が出来る居場所を届けることができました。また子ども達と触れ合うことだけでなく、地域行事に参加させていただくなど地域交流を行うことができました。こうした新たな取り組みを通して、団員同士の絆も深まったと感じています。面瀬地区の皆様の温かいお言葉や、子ども達の元気な姿が団員一同の支えに繋がりました。活動に関わってくださった皆様、ありがとうございました。来年度も地域の皆様に貢献できるよう、邁進してまいります。

#### ■ 櫻井 朝花（面瀬学習支援 2023年度副代表・法学部3年生）より



面瀬学習支援での1年間を振り返ると、「挑戦」という言葉が思い浮かびます。前年度は、団体の理念を改め、面瀬地区の子どもたちだけでなく、地域課題にも力を入れていくことに決めました。そのため、今年度から活動の中で、できるだけ地域の方々との関わりを増やせるような企画をしました。夏の活動では、参加学生の公民館への宿泊、地区のお祭りへの参加、自治会館のシャッターペイント企画など、全て私たちの代にとって初めての試みでした。そのため、初めてのことに苦戦することも多々ありましたが、運営やメンバーたちと最後までやり切ることができ、今までにない達成感を味わうことができました。また、準備段階や現地の活動を通して、地域の方々との関係も深まり、今後の地域交流の第一歩にもなったと実感しています。

今後の活動では、夏活動をきっかけにつくった活動の基盤をそのままに、より活動の幅を広げて、地域に愛される「面瀬学習支援」を目指していきたいです。



## チーム防災 ～「学生×地域×防災」で自助・共助の力を高める～

### ■団体理念

「災害時に生き延びる、そして災害後に安心して暮らす」という最終目標に向かって、チーム防災は「防災活動を通じて学び合い・活かし合い・自助共助の力を高め合う」という理念のもと活動しています。東日本大震災の被災地にボランティアに参加していた先輩方が東京での防災活動の必要性を感じ、チーム防災は発足されました。その意思・理念は今なお団体内で大切に受け継がれています。今後も地域のみなさまとの交流を通し、日々「防災」について学びを深めています。

### ■団体構成

31人（4年生10人 3年生9人 2年生5人 1年生7人）

### ■活動

主に日野市のイベントに参加し、災害に関する授業やオリジナルゲームを行っています。法学部の移転に伴い、今後は茗荷谷でも地域の方々との交流を深めていく予定です。地域の方々を楽しみながら防災について学んでもらい、自助共助の力を高めるためにチームで切磋琢磨していきます。

活動	内容	日程	参加人数
防災クイズ&ゲーム Day2023	東京臨海広域防災公園で行われた「防災クイズ&ゲーム DAY2023」に出席し、チーム防災が制作した防災コンテンツを紹介	7/2 (日)	学生 7
南平高校 毛布担架	東京都立南平高等学校の授業にて、毛布担架の使い方をレクチャーし、実際に生徒のみなさんと体験	7/11 (火)	学生 2
イオンモール多摩平の森 カエルキャラバン	イオンモール多摩平の森にて、カエルキャラバンを用いた防災啓発活動	8/1 (火)	学生 9
茗荷谷キャンパス 防災センター講話	防災センターのスタッフから茗荷谷キャンパスの防災設備について教えていただく	8/3 (木)	学生 3
放課後デイサービスシエル 防災イベント	障がい児向け放課後デイサービス「シエル」の子どもたちを対象に熊本地震の話、防災クイズ、持ち出し品釣り等を用いた防災啓発活動	8/23 (水)	学生 5
防災フェス イオンモール多摩平の森	イオンモール多摩平の森にて、持ち出し品釣り、毛布担架、紙食器づくり、防災おみくじを用いた防災啓発活動	9/17 (日)、9/18 (月)	学生 8
チャレンジ防災運動会 イオンモール多摩平の森	ジャッキアップ、毛布担架、非常持ち出し品を覚えるゲームを実施	10/8 (日)	学生 3
日野市まちづくり市民フェア	防災百人一首を体験いただく、日野市で行われている様々な活動を知る	10/15 (日)	学生 4
中央大学付属高等学校 防災授業	防災クロスロード、防災百人一首、毛布担架を実施	10/23 (月)	学生 7
ながぶさこども祭り	八王子市主催のながぶさこどもまつりにて、毛布担架・防災百人一首・防災おみくじを実施	10/28 (土)	学生 4
すみだボランティアまつり出展	押上小学校にて開催された墨田区社会福祉協議会主催のイベントにて防災かるた、持ち出し品釣りを実施	10/29 (日)	学生 3
白門祭 多摩キャンパス	防災おみくじ、防災百人一首、防災すごろく、防災金魚釣りの実施	11/3 (金)、11/4 (土)	学生 11
白門祭 茗荷谷キャンパス	防災おみくじ、防災百人一首、防災すごろく、防災金魚釣りの実施	11/5 (日)	学生 8
入間市金子中央自治会防災訓練	自治会の避難訓練後に行われた防災ゲームを担当し、防災百人一首、紙食器、紙スリッパ作りを実施	11/12 (日)	学生 3
豊一 秋の防災イベント	東豊田公園にて行われた防災イベントにて、防災すごろくを実施	11/19 (日)	学生 4
さいかちぜき公園 防災訓練	地域の防災訓練に参加し、毛布担架を実施	11/23 (木)	学生 4
神戸スタディーツアー	震災資料保管庫の見学、震災を実体験した方からお話を伺う、人と防災未来センター訪問、あべのタスカル訪問	2/7 (水) ~ 2/9 (金)	学生 5
第二回学ぶ防災 with GRANDUO	グランデュオ立川のイベント「第二回 学ぶ防災 with GRANDUO」にて防災すごろく、防災金魚釣りを実施	3/2 (土)、3/3 (日)	学生10
こどもシティ	八王子市横山南市民センターで行われた子どもを対象としたイベントにて防災百人一首・防災金魚釣り・防災おみくじを実施	3/10日 (日)	学生 4

### ■尾野山 息吹 (チーム防災 2023 年度多摩支部長・経済学部 2 年) より



僕は、チーム防災の活動を通して「ボランティアとは」をものすごく考えました。

僕は、チーム防災に入る前は「ふらっと真備」という水害をテーマとしたボランティア団体で活動をしていました。しかし、人手不足・現地での復興作業が進んでいることから、団体を収束することにしました。そこで、まず感じたのは、ボランティアの必要性が少なことは、とてもいいことなのではないかということです。災害に関して言えば、ボランティアが必要なのは、困っている人がいるからで、逆に言えばボランティアが必要ないのは、困っている人が少ないということだと感じました。そして、ふらっと真備を経てチーム防災の活動に加わり、感じたのは「ボランティアとは相手に何かを分け与えること」です。チーム防災の活動で言えば、イベントなどでコンテンツを通して防災の知識を分け与え、防災に対する意識を分け与える。

ふらっと真備では、水害で被災された方に、元気を分け与えるなど。ボランティアは、人と人とのつながりをとても象徴とした活動で、自分はとても好きです。これからたくさんの活動に参加し、たくさんの方との交流を通して多くのことを学んでいきたいです。

### ■森川 蓮真 (チーム防災 2023 年度茗荷谷支部長・法学部 2 年) より



2022 年度は、ボランティア活動が人々に影響していることを感じられた一年でした。昨年度お世話になった方々から再度イベントのお声がけをいただいたり、イベント内で防災ゲームを行った方から自身の町内でも使いたいとご相談いただくなど、チーム防災の活動がそのとき限りのものではなくなっていると感じられることが多々あり嬉しく思っています。

防災には「ここまでやれば大丈夫」というゴールがない上に、一朝一夕の準備では意味を成しません。だからこそ、防災が日常生活の中に溶け込んでいるのが最も良い形なのではないかと考えています。しかし、多くの人にとって防災はまだ「難しく見えてつい敬遠してしまうもの」であると活動を通して感じています。ゲームや体を使って気軽に防災に触れる私たちの活動がそんな認識を少しでも変え、それぞれの日常生活の中で防災についてふと考える時間が増えるきっかけとなれるよう来年度も工夫を忘れず活動していきます。



## りこボラ！ ～理系でもボランティアを日常に！～

### ■団体理念

私たちが掲げる活動理念は「理系でもボランティアを日常に！」です。これは、りこボラ！が設立された 9 年前、後樂園キャンパスにボランティア団体がなかったところに、理系でもボランティアを日常的にできる環境を作りたいという想いが込められたものです。さらにその根底には、私たち 1 人 1 人がボランティアの話をすることが特別でなくなり、日常的にボランティアの話が出てくるような、実際に活動したからこそ得られる貴重な体験談を分かち合えるような、そんな環境を作りたいという想いも込められています。私たちはこの理念を掲げて日々活動に励んでいます。

### ■団体構成

99 人 (3 年生 24 人 2 年生 34 人 1 年生 41 人)

### ■活動

- ① ボランティア活動…ごみ拾い、高齢者向けスマホ教室、子供向けの理科実験、学習支援、街路樹の手入れ、震災地域へのお手伝い etc
- ② イベント企画…様々な分野のボランティアを 1 から企画、他大学とのコラボ企画、学祭にも参加します
- ③ ボランティア紹介…いろいろな分野、初心者～経験者まで様々な方のニーズに合わせたボランティア情報を発信しています

活動	内容	日程	参加人数
新入生オリエンテーション	理工学部の新入生ガイダンスにて、りこボラ！について説明	4/1 (土)	学生 82
ここがいい！みんなのひみつきち (居場所企画)	地域の居場所の拠点 (Re なでしこ元町) にて多世代が交流する機会の企画・運営	4/8 (土)	学生 4
新歓ごみ拾い	新歓活動のひとつとして、上野公園でゴミ拾い	4/9 (日)	学生 18
スマホ教室	文京区民センターにてずうむの会の方を対象としたスマホ教室	4/13 (木)	学生 6
福祉スポーツ体験会	新歓活動のひとつとして、パラスポーツであるボッチャの体験会	4/22 (土)	学生 14
防災ゲーム体験会	新歓活動のひとつとして、防災カードゲームを実施	4/29 (土)	学生 22
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	5/4 (木)	学生 5
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	5/7 (日)	雨のため中止
ここがいい！みんなのひみつきち	地域の居場所である Re なでしこ元町にて高齢者の方と交流	5/13 (土)	学生 3
りこボラ！総会	りこボラ！に入会する学生向けのスタートアップ会、懇談会	5/13 (土)	学生 90
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	6/1 (木)	学生 2
山手線一周 de ごみさんぽ	山手線沿線を一周するかたちでゴミ拾い	6/4 (日)	学生 34
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	6/17 (土)	学生 9
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	7/6 (木)	学生 3
ここがいい！みんなのひみつきち	地域の居場所である Re なでしこ元町にて地域の方々と交流	7/8 (土)	学生 3
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	8/3 (木)	学生 7
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	8/19 (土)	学生 17
柳町小学校 PTA 運動会イベント	今の大学生が体験してきた運動会を現代の小学生に体験してもらう運動会を企画・開催。大玉転がしや障害物競争等	8/20 (日)	学生 23
夏合宿	白門祭準備、ファシリテーションの実践、レクリエーション等	9/3 (日) ~ 5 (火)	学生 43
防災シミュレーション	都心キャンパス庶務課協力による講話、ダイバーシティセンター協力によるベルカ体験、避難訓練、参加者同士のディスカッション	9/20 (水)	学生 29
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	9/23 (土)	学生 8
柳町フェスタ	文京区立柳町小学校 PTA 主催イベント (縁日、花火大会等) の手伝い	9/24 (日)	学生 12
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	10/5 (木)	学生 9
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	10/21 (土)	学生 9
白門祭	レモネード・ジンジャエールの販売およびボランティア診断 (そのひとにあったボランティアを紹介) を実施	11/4 (土)、5 (日)	学生 50
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	11/25 (土)	学生 5
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	11/30 (木)	学生 8
東青柳町会もちつき	町会行事のもちつきの手伝いを通じて、文京区の高齢者と交流	12/3 (日)	学生 9
荒川周辺コラボごみ拾い	立教大学 YMCA、ひつじくも (学友会公認団体) とともに、複数のチームに分かれて拾ったごみの種類や数を元にポイントを算出し、ゲーム感覚で楽しくごみ拾い	12/9 (土)	学生 5
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	12/15 (金)	学生 7
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後楽園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	12/23 (土)	学生 9
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	2/1 (木)	学生 6
柳町小学校 PTA 本気の豆まき	柳町小学校 PTA 主催イベントの企画・運営の手伝い (豆まき、豆うつし競争、節分 O×クイズ大会)	2/3 (土)	学生 10
柳町小学校 PTA 冬の運動会	柳町小学校 PTA 主催イベントの企画・運営の手伝い (今の大学生が経験した運動会を再現する)	2/12 (月)	学生 12
小日向台町小学校 PTA かるた大会	小日向台町小学校 PTA 主催イベントのかるた大会の運営手伝いとして審判役を担当	2/17 (土)	学生 12

活 動	内 容	日 程	参加人数
坂道の会	文京区ロードサポート「坂道の会」と後樂園キャンパス周辺の清掃、植栽の手入れ	2/24 (土)	学生 9
スマホ教室	文京区民センターにてシニア世代を対象にスマホの使い方を教える	3/7 (木)	学生 12
Project COOP コラボごみ拾い	ProjectCOOP と合同で多摩キャンパス周辺のごみ拾い	3/9 (土)	学生 8
Project COOP コラボごみ拾い	ProjectCOOP と合同で後樂園キャンパス周辺のごみ拾い	3/10 (日)	学生 8
春合宿	富浦臨海寮に宿泊し、モチベーション向上のための意識共有、新歓準備、レクリエーション	3/11 (月) ~ 13 (水)	学生 28
さきちゃんちで理科実験	ワークスペースさきちゃんちにてスライム作り (※悪天候により子どもの参加はなし)	3/25 (月)	学生 5
ロケットを飛ばそう with アクティ 指ヶ谷	文京区立指ヶ谷小学校にて、小学生を対象とした実験プログラム (カメラフィルムケースにパズルを入れ、科学反応により飛ばす)	3/26 (火)	学生 13

### ■朱 瞳 (りこボラ！ 2023 年度代表・理工学部 3 年) より



私が代表を務めた際に、最も強く感じたのは仲間たちと地域の皆さんの支えの大きさでした。私たちの団体はさまざまな分野のボランティア活動に取り組んでいたため、全てを1人で把握してまとめることは非常に困難で、仲間と協力して団体を運営することが必要不可欠であると痛感しました。様々な場面で仲間の支えを受け、地域の皆さんの援助があって初めて成り立っていた1年でした。本当に多くの方々に支えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験を通じて、協力と支援の大切さを改めて感じました。困難に直面しても、仲間と地域の皆さんとの絆があれば乗り越えられることを学びました。これからも、共に助け合いながら、より良い社会を築いていくために努力していきたいと思えます。

### ■大館 雄介 (りこボラ！ 2023 年度副代表・理工学部 3 年) より



私はこちらで、良かった点および悔いている点を述べます。その後、僭越ながら自身の学びを添えさせて頂きます。まず前者は、「社会に役立つ知識を学べたこと」です。具体的には組織運営や渉外の仕方等です。学生の中に失敗を経験できて良かったと感じております。まだ不十分ですが、必要な事柄の一端を知ることができました。続いて後者は、「幅広い経験・視野を持たなかったこと」です。勉強や旅行等にももっと時間を割いておきたかった、と今は思います。また活動自体に満足し、自分に本当に必要なことを考える機会を設けなかったことは反省しております。

これらを踏まえた自分の学びは、「相手の立場に立つこと」が重要だということです。自分の考えではなく相手の意見を最優先にするべきだという意識を常に持つよう努めております。今後も自分の意見は最適ではないかもしれないという考えを持ち、相手の気持ちや意見に細心の注意を払っていこうと思えます。



# 協定・助成/メディア掲載

## 協定・助成

- ・公益財団法人日本財団ボランティアセンター様には、講座、イベント、スタディーツアーの講師謝礼金およびボランティアセンター主催の宿泊型活動や公認学生団体の活動において、交通費や宿泊費等を助成していただきました。
- ・社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団様には、能登半島地震のボランティアプログラムにおいて、学生の交通費を助成していただきました。
- ・学会（白門飛躍募金）様よりいただいた募金は、秋田や福島での宿泊型活動や公認学生団体の活動においての交通費や宿泊費等の補助をはじめ、多摩と茗荷谷キャンパス周辺での活動に必要な資金の補助をしていただきました。改めて、ご支援に心より御礼申し上げます。

敬称略

名称	対象団体
公益財団法人 日本財団ボランティアセンター	ボランティアセンター
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団	ボランティアセンター
学会（白門飛躍募金）	ボランティアセンター

## メディア掲載

### 新聞・テレビ等 掲載

敬称略

メディア名	内容	掲載 / 放送日
福祉広報 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 ボランティア・市民活動を広げ、応援する！ネットワーク 8月号	大学生のボランティア活動と地域のつながり～コロナ禍を経ての現在地 (チームくまもと) 【熊本地震から6年】コロナ禍で現地へ行けない…… 学生ボランティア団体が直面した遠隔支援の難しさ	2023/ 6/ 8 2023/ 4/14
かえでニュース 10月号	中大生と遊ぼう夏休みクイズラリー(8/19) 開催報告	2023/ 9/25
三陸新報 (日刊)	「優しく教えてもらった」中央大学 面瀬で学習支援継続	2023/ 8/19
ふれあい交差点	あれから12年、今も続く中央大学の学習支援 ～子供たちの笑顔に会いたくて～	2023/10/12
秋田魁新報	中大生、建物建設を支援 記録的大雨被害 25人「復興の一助に」	2023/10/23
読売新聞 秋田版	中央大生 五城目で建設ボランティア 大雨で工期遅れの現場	2023/10/24
NHK 宮城 てれまさ	台風19号で被害 東京の大学生 丸森町で竹林整備	2023/12/26
tbc テレビ	「イノシシなどが出ないように竹の伐採作業」なぜ竹は伸び放題になったのか 中央大学生が豪雨被災地でボランティア 宮城	2023/12/27
三陸新報	中央大学生と児童が焼き芋 面瀬	2023/12/28
朝日小学生新聞	災害にあった写真 洗って救おう(1面) 写真は「心の支え」になるから(3面)	2024/ 1/10
朝日中高生新聞	汚れた写真洗って持ち主に 被災者の心の支えに	2024/ 3/10
タウンニュース多摩版	愛宕かえで館 パラスポフェスで歓声 パラダグンス持田選手来場	2024/ 3/28

### 草のみどり 掲載

敬称略

Vol.	掲載者	内容	掲載月
337	大野 さくら (文・学生スタッフ)	ボランティアは私のライフワークー社会や世界を良くする仲間を増やしたいー	2023年5月号
338	小松 莉子 (理工・りこボラ！)	自分と向き合うボランティア	2023年7月号
339	西 直樹 (商・チーム防災)	今こそボランティア ～ボランティアを通じて心を豊かにする～	2023年9月号
340	境 太陽 (商・面瀬学習支援)	ボランティア活動の「終わり」	2023年11月号
341	大内 菜摘 (経・ふらっと真備)	今の自分を作り上げたボランティア	2024年1月号
342	松下 舞羽 (経・学生スタッフ) 篠崎 涼 (文・チーム防災) 白木 寧音 (経・面瀬学習支援)	【座談会】 社会課題を自分事として受け止められる自分に	2024年3月号

行動する知性。



発行日：2024年9月  
発行者：中央大学ボランティアセンター  
連絡先：TEL 042-674-3487  
E-mail：chuo-volunteer-grp@g.chuo-u.ac.jp

